

競技注意事項

1. 本大会は2021年度 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって競技を行う。

2. 競技者の招集について

(1) 招集所は競技場第1ゲート付近(100mスタート付近)に設ける。

(2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻	種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	20分前	15分前	走高跳	50分前	45分前
フィールド競技	35分前	30分前	棒高跳	65分前	60分前

(3) 招集方法

(ア) 競技者は出場種目の招集開始時刻がきたら招集所で点呼を受ける。事前に一次点呼として掲示板のリストに○印をつける。

(イ) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

(ウ) 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。

3. 競技場への入退場について

(1) 入退場は必ず競技役員の指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前(メインスタンド下の通路)の通行は禁止とする。

(2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。

(3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員または場内指令の指示に従うこと。

4. アスリートビブスについて

(1) アスリートビブスは交付された大きさのまま使用し、必ずユニホームの胸・背に確実に付けること。ただし跳躍競技に出場する者は胸・背のいずれかでもよい。

(2) 800m以下のトラック競技出場者は、腰ナンバーカードを各自で用意し、右側後方に付けること。ただし、男女4×400mRの、第2・第3走者は左側後方にも付けること。

(3) 1500m出場者は、腰ナンバーカードを競技者係で受け取り使用すること。

(4) 3000m以上の競技(競歩も含む)は、レーンナンバーカード及び腰ナンバーカードを競技者係で受け取り使用すること。

5. 走路順・試技順について

(1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載どおりとする。

(2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順については、番組編成員により厳正に抽選し、決定する。

6. 同タイムでのプラス進出者確定について

(1) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部(電気計時1/1000)まで読み取り着差を判定する。

(2) 判定が不可能な場合は救済レーン(第9レーン)を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人が代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。

(3) リレーを除く1500m以上のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは、着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。

7. 競技について

(1) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン到着後も自分のレーン(曲走路)を走ること。

(2) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の招集完了時刻1時間前までに、オーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。

* 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。

* 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差し替え)は認められない。

* 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。

(3) 競歩競技においては制限時間を設ける。40分以内に4600mを通過できなかった者は、競技を中止させ失格とする。ただし、男子4名・女子7名までは残す。

(4) TR16.8により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。

「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、審判長がイエロ

ーカードを示し警告を与える場合がある。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。

- (5) トラック競技における TR5.13 に違反するシューズでの出場は認めない。
- (6) フィールド競技においては TR5.5 を適用しない。よって、記録は国内でのみ通用するものとなり、WAへの申請も行わない。しかし、国際競技会への参加資格となり得る記録が出た場合は、競技終了直後に全員のシューズを検定する場合がある。
- (7) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアから助言を与える場合はマーシャルが該当種目の競技役員の指示に従い競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せることは出来るが、手渡すことは出来ない。
- (8) 三段跳びの踏み切り板は、砂場から男子は11m、女子は9mの地点に設置する。

8. バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	3	4	5	備考
男子走高跳	決勝	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	以降3cm刻みとする
女子走高跳	決勝	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	以降10cm刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第1位及び全道大会出場権決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm 棒高跳では5cm 単位とする。

9. 予選通過記録

	走幅跳	やり投
男子	6m00	36m00
女子	—	23m00

※ 天候その他によって通過記録の変更もありうる。

- 10. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検査を受けて通ったものを使用することができる。検査は、8:00~8:30までの間に、本部前にて実施する。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。

11. A, B決勝について

- (1) A, B決勝がある種目について、予選ベスト16の場合は上位8名がA決勝、下位8名がB決勝とし、準決勝がある場合は各組の1着と2着がA決勝、3着と4着はB決勝とする。
- (2) A・B決勝のある種目については、B決勝から先に行う。
- (3) A・B決勝のある種目については、A決勝進出者の中から1位~8位までの入賞者を決定する。

- 12. 各種目3位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する(代理でも良い)。4~8位の入賞者は、競技場エントランスホールで賞状を受け取る。

13. その他

- (1) 競技終了後、全道大会出場権を得た競技者の監督は、全道大会申込みを完了すること。
- (2) 各種目の全道大会出場権は、下記の順位である。

種目	100m	200m	400m	800m	1500m	3000m	5000m	100mH 110mH	400mH	3000mSc	5000mW
男	16	16	16	16	16	—	16	16	16	16	4
女	16	16	16	16	16	16	—	16	16	—	7
種目	400mR	1600mR	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投	
男	16	16	12	8	12	12	12	12	9	12	
女	16	16	12	8	12	8	12	12	6	12	

- (3) 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書(マニュアル等)に従って、しっかり固定すること。
- (4) テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。